

名張市・地域づくり研修（職員研修）
協働をさらに進めるためのポイント



特定非営利活動(NPO)法人
都岐沙羅パートナーズセンター
 Iwafune, Niigata
 理事・事務局長 斎藤 主税

1

自己紹介

元々は都市計画コンサルタント（1996~2004）

↓ まちづくりのプレーヤーでありたい！

NPO法人 都岐沙羅パートナーズセンター（理事・事務局長）

中山間地域を含む地方都市で活動する中間支援組織

NPO法人 まちづくり学校（理事）

まちづくりの人財育成、地域づくり事業・ワークショップのコーディネート

NPO法人 いいがたエキナン会（副理事長）

NPO法人 点空社（理事）

NPO法人 みらいずworks（理事）

[総務省] 地域運営組織の形成拡大に関する研究会 委員（2015~）

[厚労省] 地域づくりにおける生活支援体制整備事業と地域づくりに関する各種事業との連携に関する調査研究事業 検討委員（2017）

2

新潟県村上地域

- 構成市町村：村上市、関川村、粟島浦村
- 面積：1,483.71 平方キロメートル（新潟全体の 11.8%）
- 人口：68,644人（H27国勢調査）



3

都岐沙羅パートナーズセンターとは？

活動開始	平成11年6月1日
法人設立	平成14年3月1日
理事	9名
事務局	常勤3名、非常勤3名
会員数	正会員 40名 賛助会員 100名
主な活動	新潟県村上地域における中間支援活動
年間予算規模	約1,000~2,700万円 (H28決算：約2,100万円)

- ※行政からの運営費補助はゼロ
- ※地方自治体からの委託事業が大半
(ただし、半分以上がNPOからの提案事業)

- ◎地方自治法60周年記念総務大臣表彰受賞（2007）
- ◎平成26年度ふるさとづくり大賞・団体表彰受賞（2015）
- ◎第7回地域再生大賞・大賞受賞（2017）



4

新しい公~~共~~

5

「公」と「私」の漢字の成り立ち

私 公

稲穂を腕で囲み込む

囲み込んでいるものを解き放つ

ものごとを個別に細かく分け、回りから見えなくした様を表す「私」の隣の部分「ム」に、入り口を開けて包み隠さず明らかにすることを表す「八」を組み合わせた会意文字が「公」である。

6

コウ ~~公~~ おおやけ

おほやけ = おおやけ

「大(オホ)+家(ヤケ)」の意で
朝廷・国家・天皇のこと

平安後期武士や寺社の勢力が強大になると、朝廷(おおやけ)の政治を担当する身分つまり朝臣が公家と呼ばれるように・・・。

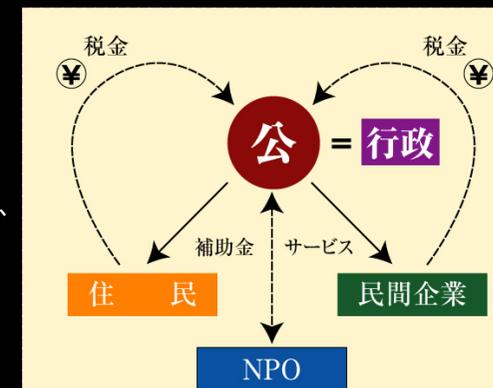
こうけ or おおやけ

公家 → 官

7

「公」 = 行政 (government)

公とは税金によって賄われ、お金やサービスという形で地域に還元されるもの

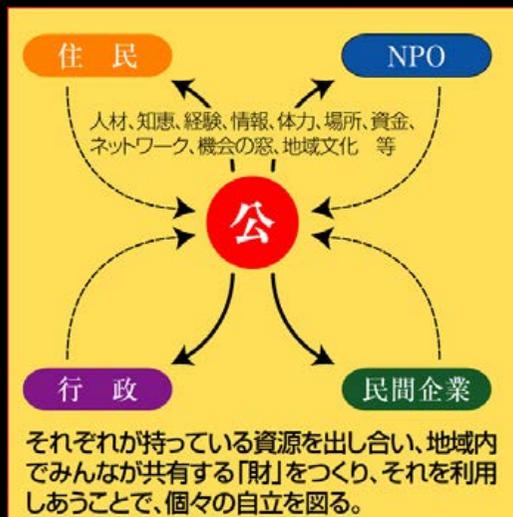


住民・民間企業・NPOにとって「公」とは行政のことを意味することが多かった。つまり行政からのトップダウンのイメージ。

8

これからの「公」 = 共有する社会資源 (public)

公とは
みんなで出し合い、
そして共有する
お金だけではない
社会資源



9

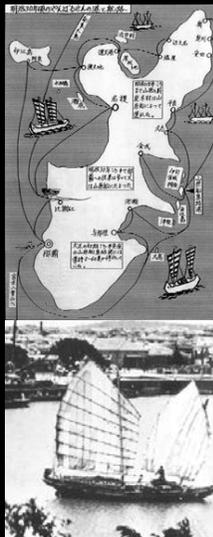
~~新しい公共~~

10

●公共と公益 大切なのは「公益」

例) 沖縄・共同店 (地域商店)

- ・ 沖縄本島北部国頭村の字奥で1906年から始まった売店形式で、今も沖縄・奄美で約60店が営業
- ・ 地域住民の共同出資・共同運営による、購買などを主な目的として設立された相互扶助組織
- ・ 「村」よりも小さな「字、小字、区」ごとに、地域の代表によって、それぞれ自立した運営が行われている
- ・ 共同売店は集落の生活を守るために生まれたもので、**利益は地域へと還元される**



- ・ 住民が様々な買物を共同店経由で！
 - ⇒ あらゆるものを共同店から買う
 - ⇒ 店に無いものは注文してもらう
 - ⇒ 定価で売る

利益を積み立てて...

- 「集落に電気を引く」
- 「住民の足となるバスを購入して運行」
- 「住民ニーズを事業化する」
 - ⇒ 生活に必要な資材の販売・共同購入／嗜好品（酒などの製造・販売）／共同浴場の経営 などなど
- 「子どもたちのための奨学金を造る」
- 「病気、災害などの見舞金を出す」 等々

共同店は集落の共有財産 (=公)

・・・公共ではなく公益を重視



11

12

活動から事業へ

13

最初は「まちづくりへの住民参加」だった

●住民参加が始まった背景

- 公共事業・マンション建設等への反対運動がまちづくりに関わる契機に
- より建設的にまちづくりに関わろうという動きが「住民参加のまちづくり」へと発展していった（80年代後半）

●「住民参加」という進め方の成熟

- 「行政事業に住民が参加する」という方法は爆発的に広がり（90年代半ば）、今では当たり前のこととなっている
- また住民が主体となって行う「住民主体のまちづくり」も同時に広がっていった（様々な活動助成が全国各地で始まった）

しかし…

14

●「住民参加」という進め方の弊害

- まちづくりにおける「住民の自立性の欠如」が徐々に表面化しはじめる

例) 世田谷まちづくりファンドが直面した課題

……助成金終了と共に住民活動も終わってしまうという現象

- 同様の現象は、全国各地でも起きた

●住民活動から住民事業へ

「住民活動」をお金も含めた継続性のある「住民事業」へと成長させることが必要という意識が芽生える

……経営の視点（＝ビジネス）を持った住民活動（＝コミュニティ）

↓
「コミュニティ・ビジネス」という造語が生まれる

15

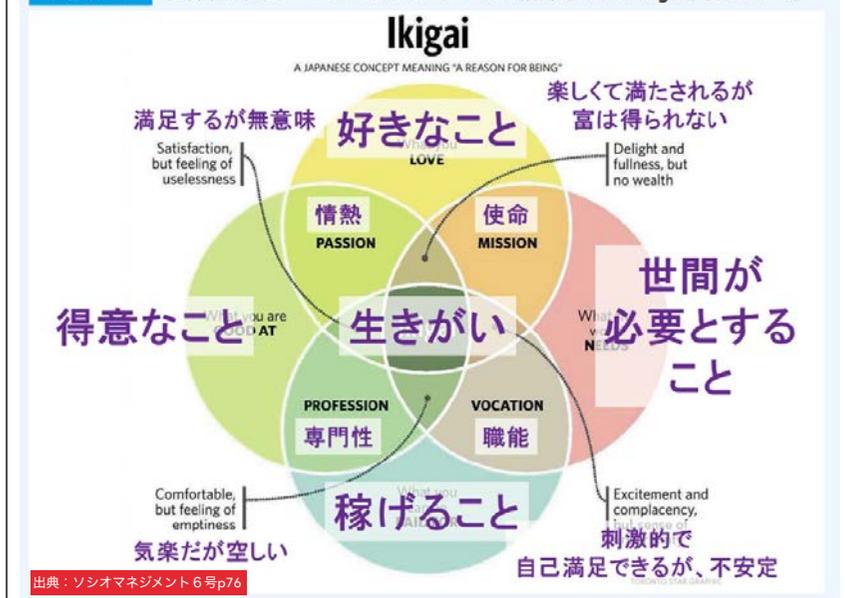
公開審査会

村上市内のショッピングセンターにて
(2004/4/17)



16

図表 4-9 世界経済フォーラムのウェブサイトで紹介された「ikigai」(生きがい)



17

地方におけるコミュニティビジネスとは

コミュニティを元気に！という理念に支えられた
「自立可能な採算を得る仕組み」



都岐沙羅の元気づくり支援事業 (H11~17) では

⇒ **68%**が今も活動・事業を継続中
(54/79事業) ※H25.6時点

比較対象がないものの、決して低い数値ではないと思われる。

18

コミュニティビジネス育成により
地域は着実に元気になった・・・が

村上地域 (1市2村) の人口は15年間で...

約 **15,000人減少**

高齢化率は

約 **14%上昇**

年少人口は

半減

という現実

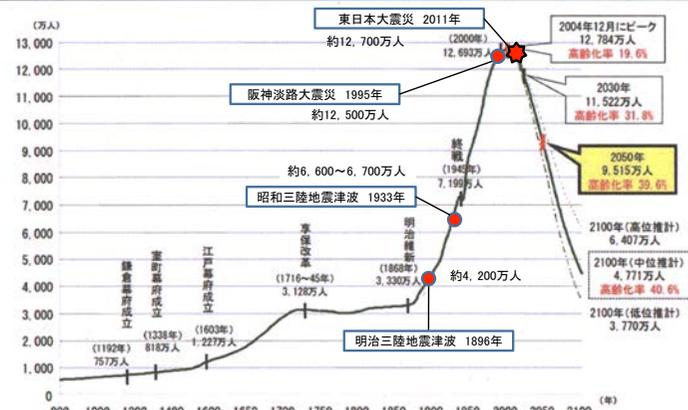
19

これまでと
これからは
違う

20

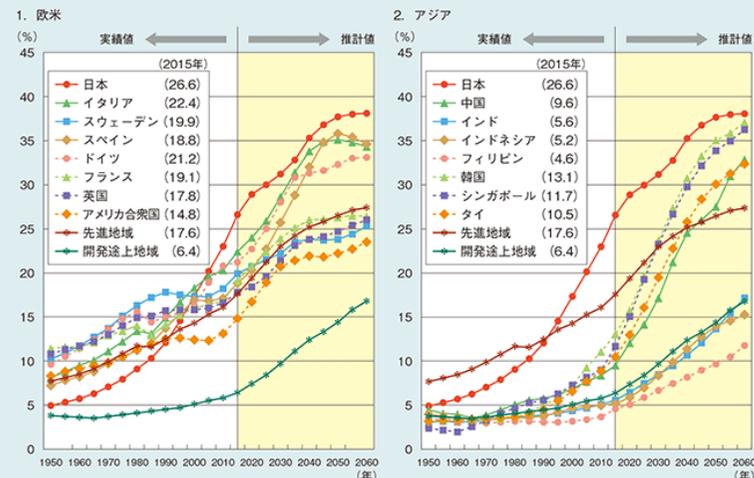
長期の人口推移

○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく可能性。この変化は千年単位でもて顔を見ない、極めて急激な減少。



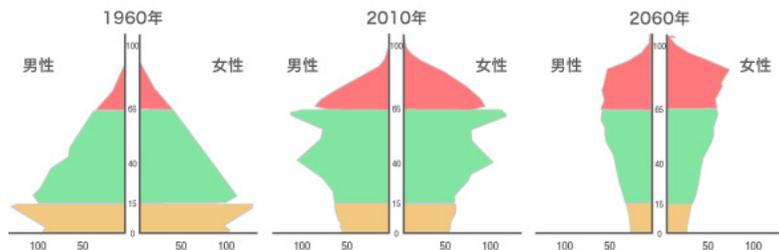
資料一国土交通省作成資料

図1-1-13 世界の高齢化率の推移



資料：UN, World Population Prospects : The 2015 Revision
 ただし日本は、2015年までは総務省「国勢調査」
 2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。
 (注) 先進地域とは、北アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。
 開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

人口ピラミッドの変化



(注) 縦軸は年齢、横軸は人口(単位:万人)。
 (出典) 1960年および2010年は総務省「国勢調査」、2060年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」の出生中位・死亡中位推計。

仮に、明日から出生率が2.xxになったとして、人口ピラミッドが1960年当

→ **50**年以上先の状況に戻るの・・・
 (2070年)

人口減少は避けられない現実



暮らしに大きく影響するのは
人口構成の変化

数字の意味を知ると、見えてくるものが変わる

地域における年齢層・世代の意味

65歳以上 → 高齢者 ← でもお元気な方たくさん
いらっしゃいますよね？

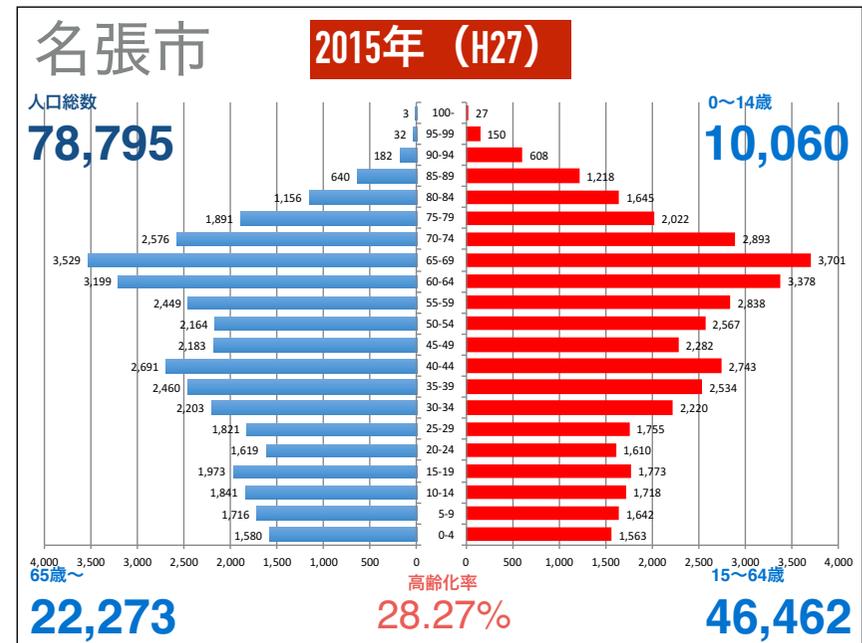
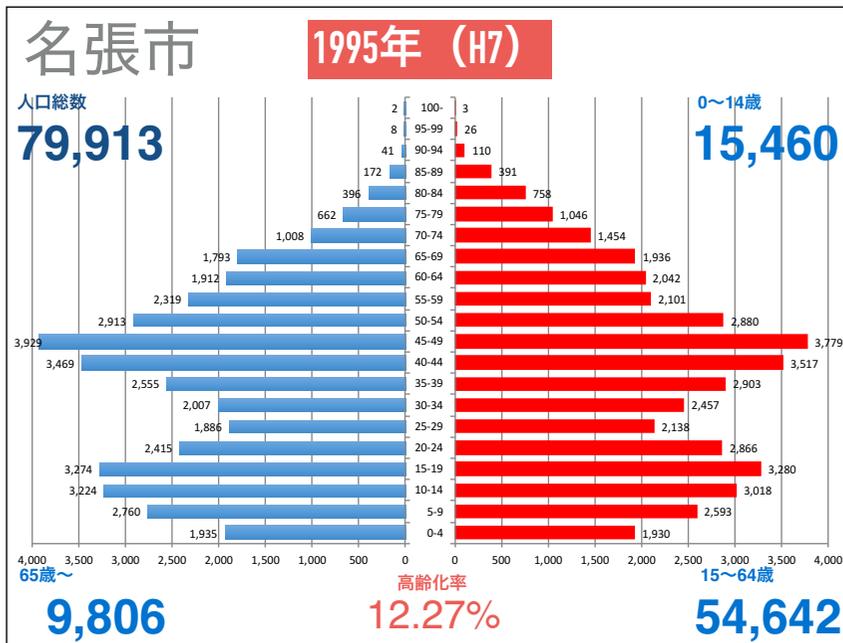
65～74歳 → いま地域の住民自治を
支えている世代

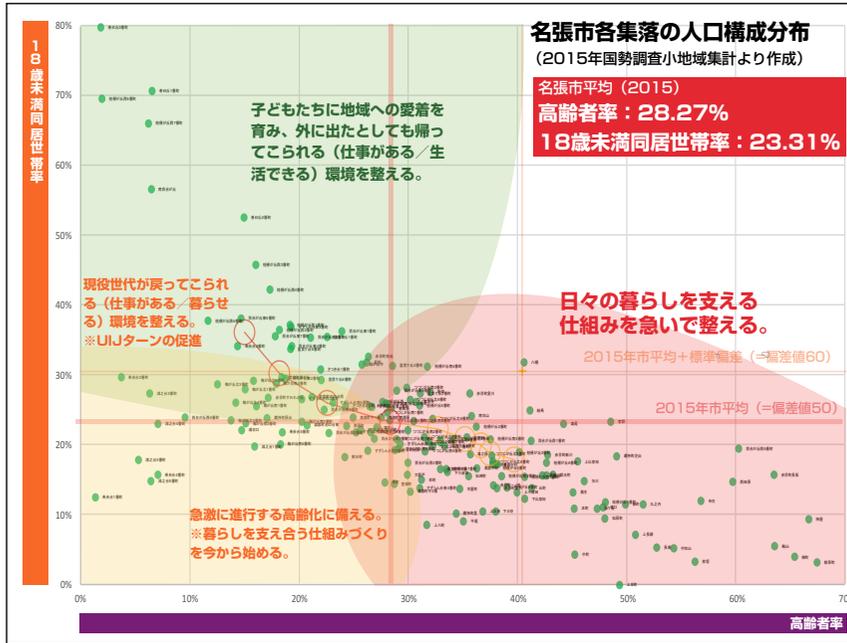
75歳以上 → 地域を支える側から
＝後期高齢者 自らが支えられる側に

85歳以上 → 4人に1人が要介護3以上
※要介護3以上の2人に1人が85歳以上というデータも
(国勢調査より既に明らかになっている事実)

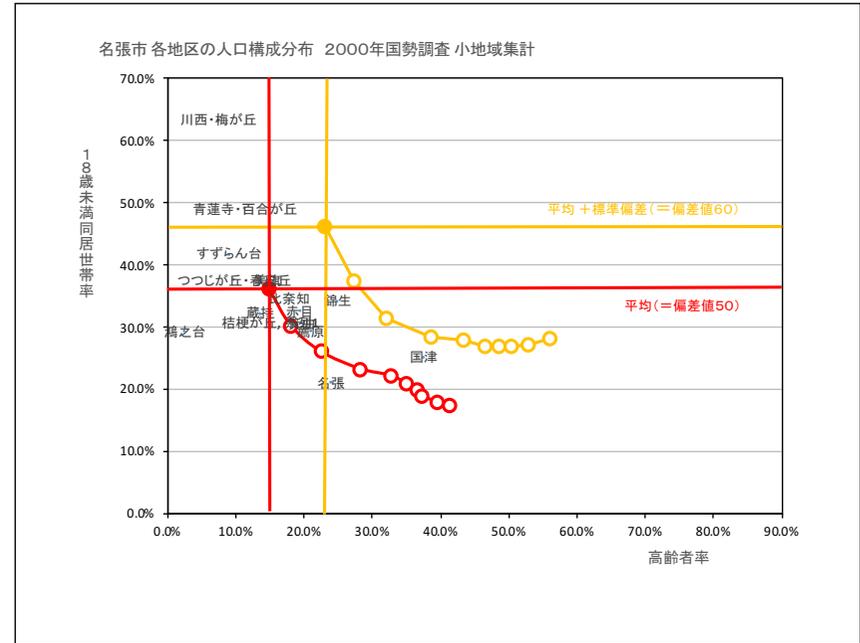
名張市	各年の国勢調査データ			社人研予測	
	1995年	2005年	2015年	2025年	2035年
人口 (人)	79,913	82,156	78,795	73,582	65,699
0～14歳	15,460	11,603	10,060	8,728	7,032
15～64歳(A) (生産人口)	54,642	55,593	46,462	39,020	34,128
65歳～ (高齢者率)	9,806 12.39%	14,893 18.13%	22,273 28.27%	25,834 35.12%	24,539 37.36%
65～74歳	6,191	8,315	12,699	11,072	8,500
75歳～	3,615	6,578	9,574	14,762	16,039
85歳～(B)	753	1,555	2,860	4,251	6,874
A÷B	72.6人	35.8人	16.2人	9.2人	5.0人

※85歳以上の4人1人が要介護3以上/要介護3以上の2人に1人が85歳以上(国勢調査より)
※2015年の高齢者率 三重県平均: 27.92% 全国平均: 26.63%

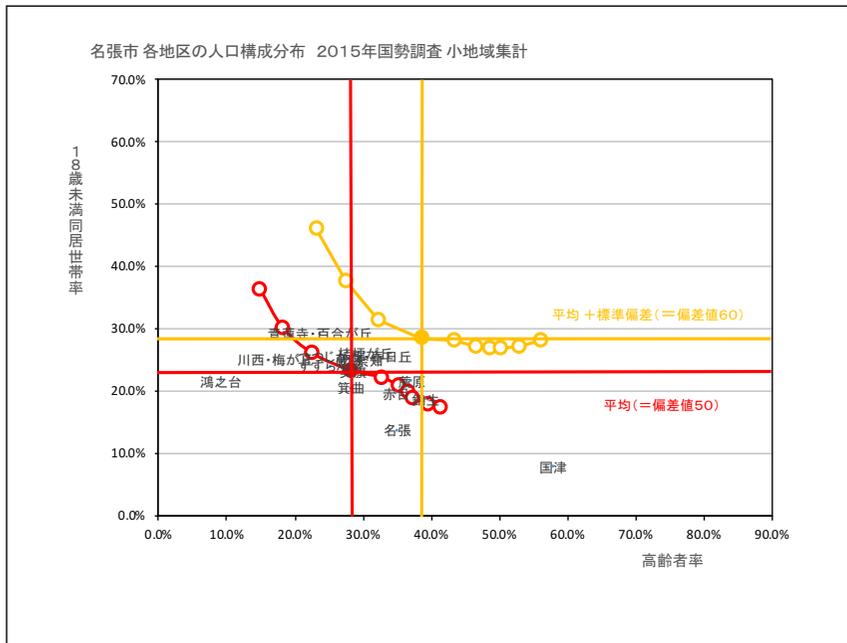




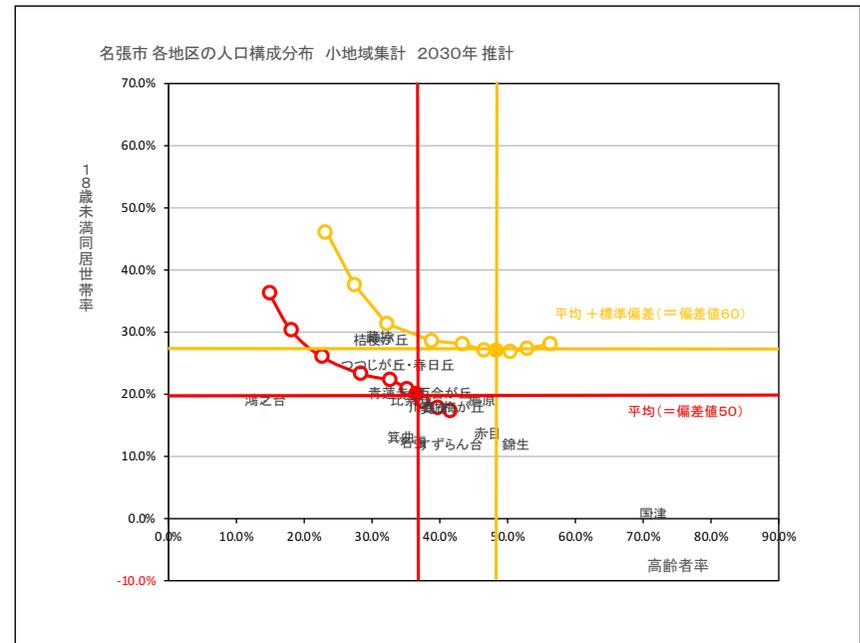
29



30



31



32

名張市における高齢者の推移・予測

名張市全体	各年の国勢調査データ				独自推計値		
	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
高齢者数	12,440	14,893	18,066	22,273	24,622	24,993	24,239
高齢者率	14.9%	18.1%	22.6%	28.3%	32.4%	34.6%	35.6%
後期高齢者数	4,882	6,578	7,985	9,574	11,429	13,860	14,912
率(同)	5.9%	8.0%	10.0%	12.2%	15.1%	19.2%	21.9%
65-74歳	7,558	8,315	12,699	12,699	13,193	11,133	9,327
率(同)	9.1%	10.1%	15.9%	16.1%	17.4%	15.4%	13.7%
85歳以上	1,180	1,555	2,078	2,860	3,315	3,731	4,508
率(同)	1.4%	1.9%	2.6%	3.6%	4.4%	5.2%	6.6%
一般世帯数	26,683	28,264	29,445	30,540	30,381	29,554	28,203
世帯当たり人数	3.10	2.88	2.69	2.56	2.48	2.42	2.39
65歳以上単身	1,156	1,619	2,146	2,935	3,186	3,300	3,242
65歳以上夫婦	2,353	2,193	3,101	5,021	4,242	4,310	4,211
高齢者のみ世帯	3,509	3,812	5,247	7,956	7,428	7,610	7,453
率(同)	13.2%	13.5%	17.8%	26.1%	24.4%	25.7%	26.4%

33



34

少子高齢化(多老化)の進展

少子化/現役世代減少 → 税収減
 高齢化(多老化) → 社会保障費増
 さらのインフラの更新による支出増

行政依存体質の改善が不可欠!

住民自治の再構築!

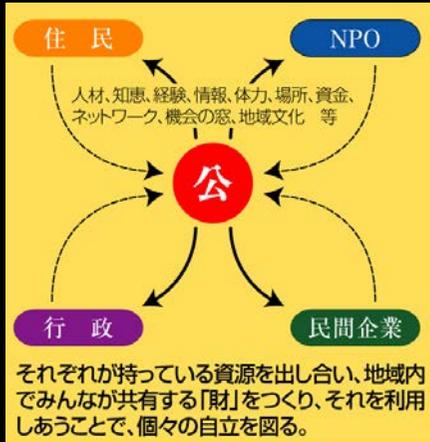
35

これからの地域づくりは、
 今までの延長ではなく
 これからの時代に即した

進化が必要だ!

36

協働＝多様な主体とのコラボ



ヒト・カネに限られていくこれからの時代は、単独で何かしようとしても、うまくいかない。

行政も地域の一員として、多様な主体とのコラボしながら、地域づくり・地域経営を進めていくことは、もはや不可避！

足し算ではなく 掛け算で考える

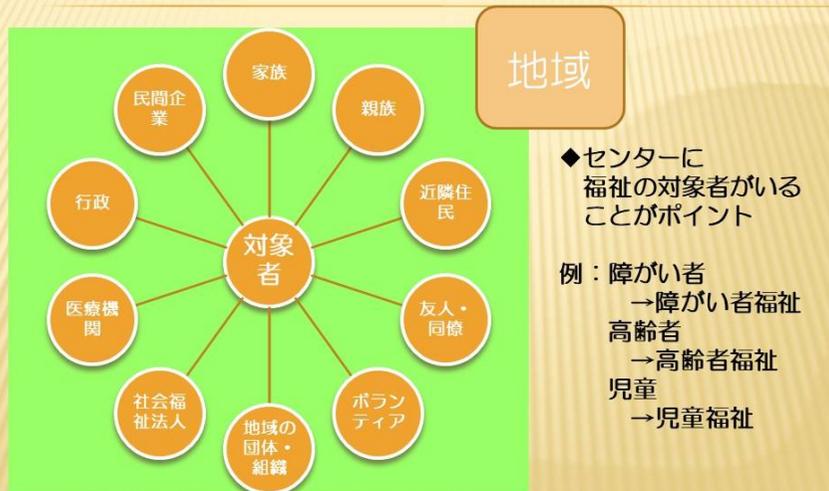
「組み合わせ」から新しい価値が生まれる。

何と何を掛け算するか？



**全く違う (or 接点のない) 分野・領域を
掛け合わせる！**

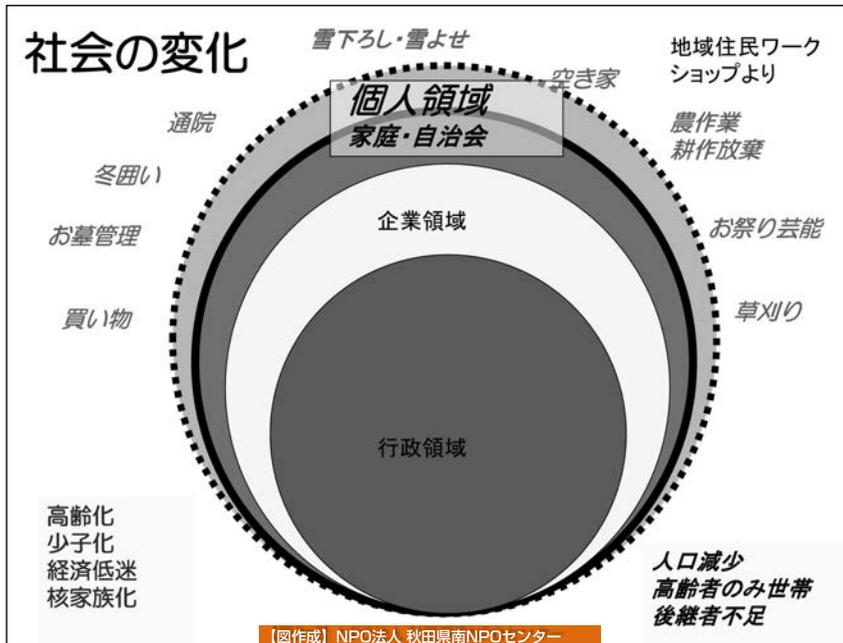
地域に対するとらえ方【福祉】



福祉も地域を構成する一分野

「タテ」を「ヨコ」へつなげていくのが地域づ

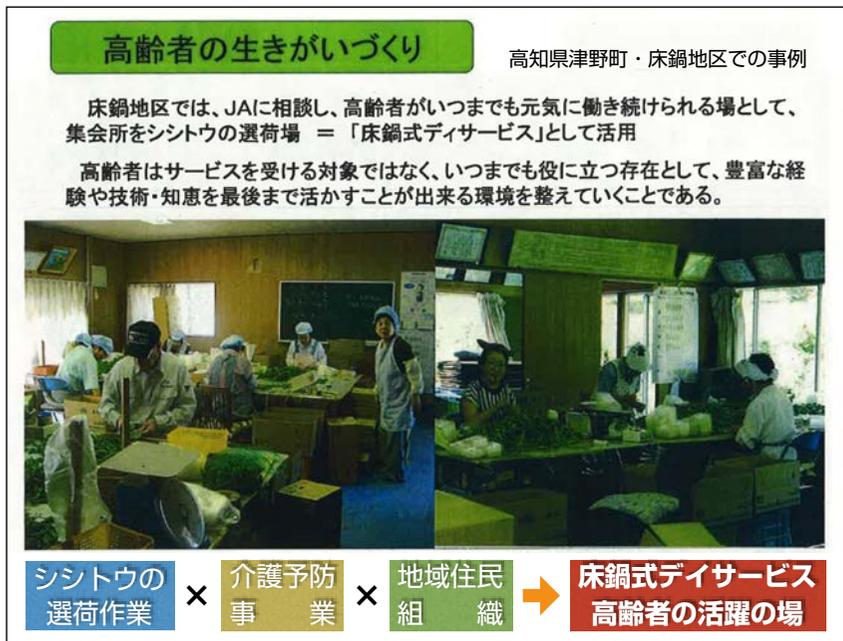




41



42



43



44



45



☆ プログラム ☆

(1) 玉入れ (集落対抗)	15名 (小中学生5名、60歳以上5名を含む)	紅白に分かれ2集落ずつ対決。1回15秒とし、1勝1敗となった場合は、決定戦を行う。玉入れカゴに補助カゴ(減点カゴ)を付け、減点カゴに入った分を減点する(1玉につきマイナス2点)。
(2) 幼児レース	未就学児	スタート線から走り、景品をもらい、折り返してゴールする。
(3) あんぜん・あんしん搬送リレー ~輪廻担架つくれるかな?~ (集落対抗)	12名 (男女各6名)	二人ペアでスタートし、毛布と竹で輪廻担架を作り、担架にかかしを載せる。かかしを落とさないようにコーンの間を通り、折り返し、次の組に担架を渡し、リレーする。アンカーがゴールしたら勝利。
(4) 綱引き (集落対抗)	10名 (男女各5名)	1チーム10人で綱を引く。相手を2メートル自陣に引っ張るか、20秒間で多く引っ張ったチームを勝ちとする。場所を代えて2試合行い、1勝1敗となった場合は、じゃんけんにより場所を決めた後、決定戦を行う。
(5) パン食い競争	100名	スタート線から走り、手を使わずに、口でパンをくわえてゴールする。
(6) 防災借り物競争 (集落対抗) ~これだけは持らたい10の持ちもの~	10名 (男女各5名)	非常持ち出しカバンを持ってスタートし、カードを1枚引く。カードに書いてある非常持ち出し品(借り物)をカバンの中に入れ折り返し、次の走者にカバンを渡し、リレーする。アンカーがゴールしたら勝利。
(7) 二人三脚リレー (集落対抗)	10名 (男女2名1組×5組)	二人三脚で、ボールを2人の頭に挟み、スタート線から走る。コーンで折り返し、次の組にボールを渡し、リレーする。アンカーがゴールしたら勝利。

46

これからの時代の地域づくりに求められるのは

住民活動ではなく**住民事業**

経済を含めた**住民自治**

分野横断による**複数機能**

↓

小規模多機能自治

47

コーディネーターの「つなぐ」役割を体感するシミュレーションプログラム

まちの底力パワーアップゲーム 2017

lite version

Copyright © 2003 Non-profit Organization Tsukisara Partners Center All Rights Reserved.

48

まちの底力パワーアップゲームとは？

まちづくりは、たくさんの人たちが関わりながら進められています。今後、ますます重要度が増す協働のまちづくりを進めていくにあたっては、**行政・企業、NPO、市民が持っている「財」を活用しあう**ことが大切です。

しかし、現状ではそれぞれが有している財は十分に活かされていません。まちづくりを進めていく上で、これらの地域財をうまく循環させていくにはどうしたらよいのでしょうか？

そんなときに活躍するのが、**地域に眠っている地域財を掘り起こし、必要なところへ届ける「コーディネーター」**です。

ただ、実際には、「頭ではわかっているけど、実際のイメージが浮かばない」とか「本当にコーディネーターって必要なの？」と思っている人は、多いのではないのでしょうか？

このシミュレーションゲームは、**地域財の循環をシミュレートしながら、コーディネーターの役割をわかりやすく理解してもらうためのゲーム**です。

49

ミッション

ある日、あなたは市民団体から活動に関する相談を受けました。

コーディネーターとして、**その団体が抱えている悩みごとを解決するためのアドバイス**をしなくてはなりません。

地域にある**多様な地域財をどうつなげれば、その悩みが解決できるのか？**グループ内で考えて、提案してください。

50

地域財を集めること

51

何気ない**会話**や**つぶやき**の中に
ヒントがある！

世間話は重要な仕事！

52

最初は妄想でOK



構想を練る

妄想：思いついただけ
構想：実現の手順もある



まずはやってみる

- しっかりした計画・準備は、本格実施の時でOK!
- 思いついたら、まずは**小さな実験**をやって**既成事実**を作ってしまう!

53

進化論を唱えたダーウィンの言葉

この世に生き残る生き物は、
最も力の強いものか。

そうではない。

最も頭のいいものか。

そうでもない。

それは、**変化に対応できる生き物だ。**

54

歩きながら考える

55